

Art for Well- Being

フォーラム／ドキュメンタリー映像上映会 — 表現とケアとテクノロジーのこれから

表現すること、表現に触れること、表現しあうことは、よく生きていくことに必要です。

たんぼの家では、これまでアートやケアを通して障害のある人の生きる力を高めること、誰もが生きやすい社会をつくることをめざして活動してきました。Art for Well-beingプロジェクトでは、病気や事故、加齢、障害の重度化など心身の状態がどのように変化しても、表現活動をはじめることや継続していくことができるように、さまざまな道具や技法、最新のテクノロジーなどを取り入れた実践に取り組んでいます。今回のフォーラムと上映会では、プロジェクトを通してみえてきた課題や可能性などの成果を共有し、障害のある人やケアに携わる人、エンジニアやデザイナーなどのみなさんと、表現とケアとテクノロジーの関わりについて考えます。

みなさんのご参加をお待ちしています。

2024年

9月14日(土)

▷ 12:00-14:00 展示・体験会

▷ 15:00-17:00 フォーラム(受付:14時30分～)

▷ 18:00-19:30 ドキュメンタリー映像上映会(受付:17時30分～)

会場 山口情報芸術センター[YCAM]スタジオC | 〒753-0075 山口県山口市中国町7-7 | information@ycam.jp |

アクセス ○駐車場あり ○バス(防長交通/中国JRバス/山口市コミュニティバス)で「情報芸術センター前」下車すぐ

参加費 展示・体験会、およびフォーラム:無料
ドキュメンタリー映像上映会:一律1,000円、学生および障害のある人と介助者は無料(当日、受付で現金にて承ります)

定員 80人(先着順/フォーラム、映像上映会)

情報保障

フォーラム:自動音声認識システムを利用した字幕あり
ドキュメンタリー映像上映会:字幕あり

主催:文化庁、一般財団法人たんぼの家、山口市、公益財団法人山口市文化振興財団
企画制作:一般財団法人たんぼの家、山口情報芸術センター[YCAM]
*文化庁委託事業「令和6年度障害者等による文化芸術活動推進事業」



申し込み、問い合わせ

参加をご希望の方は右のQRコードのフォームにて、または事務局までお電話、メールにてお申し込みください。
事務局:一般財団法人たんぼの家 Tel:0742-43-7055 Email:art-wellbeing@popo.or.jp



展示・体験会
12:00-14:00

Art for Well-beingの取り組みを映像やパネルで紹介します。現実世界と仮想世界を融合させた世界のなかで波の動きを通して感覚を共有する「WAVE:なみのダンスとMR」、AIプラグイン「Neutone」などを、体験できます。

フォーラム

15:00-17:00

「Art for Well-being —表現とケアとテクノロジーのこれから」

プレゼンテーション

1 「Art for Well-beingプロジェクトについて」



小林大祐(一般財団法人たんぼぼの家)

京都大学大学院情報学研究所で「インクルーシブデザイン」をテーマに、人・モノ・自然の共生システムや協働のあり方について研究・実践を行う。2014年よりアート・デザイン・福祉などの領域を超えて仕事を生み出す「たんぼぼの家・Good Job!センター香芝」に所属。福祉×テクノロジーのこれからの考え実践するプロジェクトを、全国各地の福祉施設と協働しながら進めている。

2 「障害のある人の身体表現とVR、MRの取り組み」



緒方寿人(デザインエンジニア、Takramディレクター)

デザイン、エンジニアリング、アート、サイエンスまで幅広く領域横断的な活動を行うデザインエンジニア。東京大学工学部卒業後、国際情報科学芸術アカデミー(IAMAS)、LEADING EDGE DESIGNを経て、ディレクターとしてTakramに参加。主なプロジェクトとして、「HAKUTO」月面探査ローバーの意匠コンセプト立案とスタイリングなど。著書「コンヴィヴィアル・テクノロジー 人間とテクノロジーが共に生きる社会へ」。

3 「YCAMにおける表現とテクノロジーの取り組み」



会田大也(アーティスティック・ディレクター)

2003年開館当初より11年間、山口情報芸術センター(YCAM)の教育普及担当として、メディアリテラシー教育と美術教育の領域にまたがるオリジナルワークショップや教育コンテンツの開発と実施を担当する。2014年より東京大学大学院ソーシャルICTグローバル・クリエイティブ・リーダー [GCL] 育成プログラム特任助教。あいちトリエンナーレ2019ラーニング・キュレーターを経て、2020年現在、YCAM学芸普及課長を務める。

ディスカッション

進行: 小林茂(情報科学芸術大学院大学[IAMAS] 教授)



博士(メディアデザイン学)。1993年より電子楽器メーカーに勤務し、2004年から現職。監訳書「デザインと障害が出会うとき」など。人工知能などのテクノロジーは自在に解釈できるものであると捉え、多様な人々が手触り感を持って議論に参加できる手法を探求している。「Ogaki Mini Maker Faire」(岐阜県大垣市)では2014年より総合ディレクターを担当。

ドキュメンタリー映像 上映会

18:00-19:30



「とけていくテクノロジーの縁結び」

ALSを発症した体奏家の新井英夫さん、ジャワ舞踊家の佐久間新さん、踊る手しごと屋の板板記代子さん、インタラクション研究者の寛康明さんの4名がコレクティブとして取り組んだ「とけていくテクノロジーの縁結び」。ALSを患うことと踊ることの関わり、テクノロジーの関わりから、みえてくる表現と生きること。2023年度に実施した公演のフルバージョンとリハーサル未公開部分を含めた映像作品。

映像紹介: 小林茂(情報科学芸術大学院大学[IAMAS] 教授)

出演: 新井英夫、板板記代子、寛康明、佐久間新
協力: 小日山拓也

映像ディレクション・撮影・編集: 丸尾隆一
撮影: 冨田了平、小林茂

監修: 小林茂
企画・制作: 一般財団法人たんぼぼの家

上映時間: 70分